



# ニ小だより

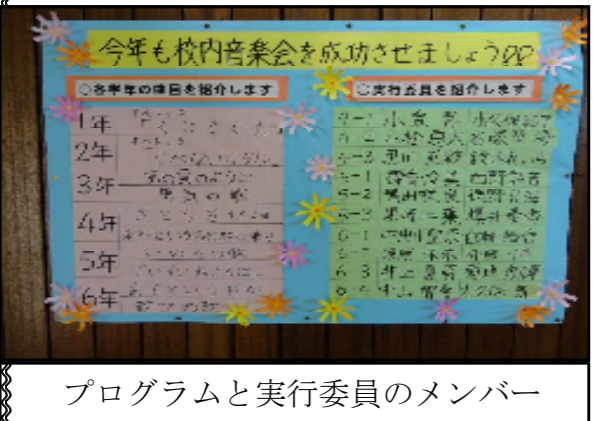
土浦市立土浦第二小学校

2011.11.11

<http://www.tsuchiura.ed.jp/~nisho/>

## 校長室の窓から

11月8日は立冬、一気に季節が動いたようです。過日行われました音楽会には、たくさんの保護者のみなさま、地域のみなさまにおいでいただき、ありがとうございました。



## 「みんなに届け！歌は希望の宅配便」

このスローガンのもと、各学年とも熱唱が繰り広げられました。

- 1・2年生のオペレッタ  
「くじらぐも」「とべないホテル」ともに、国語の教科書の題材を歌と台詞で表現しました。両方とも音読とは違った味わいがありました。
- 3・4年生のリコーダ演奏。  
3年生は音楽でリコーダを使い始めます。その音色を楽しむかのような演奏でした。
- 5・6年生の挑戦  
アカペラでの「ずいずいずっころばし」  
ドイツ語での「歓喜（よろこび）の歌」と少し高度

な合唱でした。発達段階に応じた曲目選び、学習したことの発表であったり、国語など教科との関連、日本文化や国際化を意識しての発展学習など、それぞれの曲には、音楽だけではないねらいもありました。

『勇気がぼくにささやいた たおれちゃだめだがんばれと』 (3年 勇気の歌)  
『未知という名の船に乗り 希望という名の地図を見て 夢という名のコンパスで 未来を訪ねる冒険者』 (4年 未知という船に乗り)  
『生まれてきたこと 育ててもらえたこと 出会ったこと 笑ったこと そのすべてにありがとう この命にありがとう』 (5年 いのちの歌)  
『今生きていること 一生懸命に生きること なんてなんて すばらしい 明日という日があるかぎり 幸せを信じて』 (6年 あすという日が)

それぞれの歌詞の意味を理解し、すばらしい歌声で表現し、聞き手に伝えることができました。まさしく歌の宅配便、聞き手の心を打つメッセージでした。

子どもたちにとって、よいものにふれる体験は貴重です。自分たちの歌に満足感を感じるとともに、来年は自分たちも上級生のように歌おうという意欲にもつながります。これが二小の受け継がれている伝統になっているのです。音楽会が終わりではなく、ここをスタートとしていきたいと考えています。友だちと心を合わせること、一つの目標に向かって協力し合うこと、など今後の学校生活の中でどのように発揮されるか楽しみです。先生方も合唱だけでなく、音楽会で培われた力をさらに伸ばしていこうと考えています。そして、夢を語る、

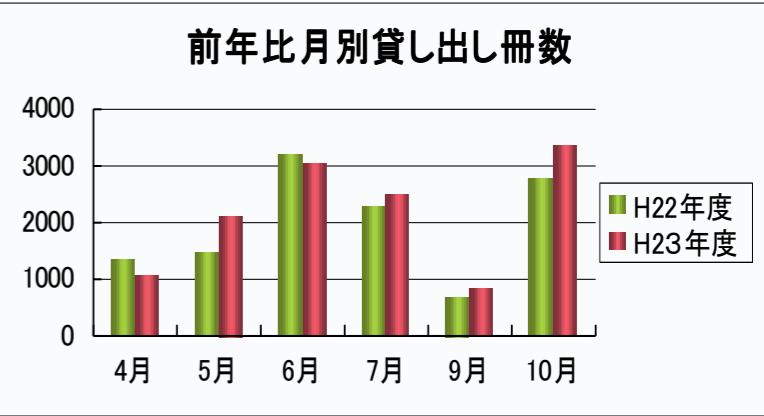
希望を持つことができる、感動する心を持つ子どもを育てていきたいと思ひます。先生たちは常に子どもたちに呼びかけています、  
「さあ すばらしい明日を探しに行こう Let's search for Tomorrow」



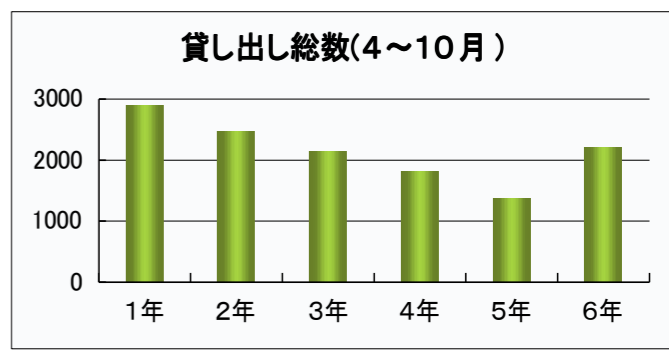
「とべないホテル」を歌う2年生



右のグラフは、図書室の貸し出し状況を表したものです。昨年度と比べ、少しずつ増えており、学年ごとのようすと見ると低学年の方が、図書室の本は多く利用されているようです。図書室の利用の仕方や、読み聞かせなど低学年で指導されるためだと考えられます。



高学年は、本人の意志に任されることが多いこと、学校内外ともに活動が増えること、内容の濃い作品に挑戦しているなどの理由から、右のような状況になっていると考えられます。

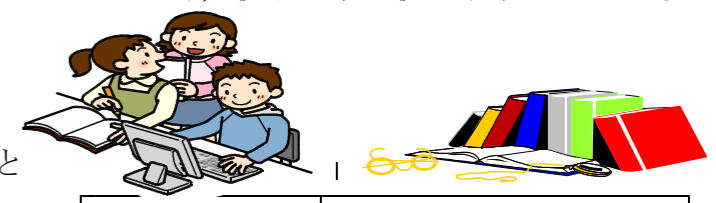


読書活動を推進するために、茨城県は平成13年度から「みんなにすすめたい1冊の本」事業を行っています。4年生以上を対象で、1年間に50冊以上読んだ児童(10月末現在4年47名5年20名6年16名)に対し県教育長賞を、3年間に300冊の本を読んだ児童(10月末現在6年11名)に知事賞を授与するものです。また、土浦市では1年から6年まで全員が10冊以上読むことを目標としており、10月末現在で、95%強の児童が目標を達成しています。

本来、子どもたちにとって『本に親しむ、本を読むことの楽しさを味わう』ということが大切であり、『何冊読んだか』ではありません。読書のよさは、実体験できないことを本を通して体験した気にさせてくれる、知らない言葉をたくさん教えてくれ言葉を豊かにしてくれる、などがあります。今はテレビ・インターネットなど映像を通して、視覚的にいろいろな情報を手に入れることができます。また、古典や名作といわれるものがマンガとなっていることもあります。とりつきやすさを狙っていると思いますが、高学年になれば活字で読んでほしいと思います。『活字を目で追い、行間に秘められたものを想像する』これが読書の醍醐味です。同じ本を読んでも人それぞれ感じ方が違うというのがおもしろさではないでしょうか。この楽しさを知っている子ども、合唱と同じでよい本に出会った子どもは、大人になって必要に応じて本を読むようになります。今の一瞬をみて、「うちの子は本が嫌いだ」と決めつけるのではなく、親子で本に親しみ楽しさ・おもしろさを味わってみませんか。

## 100%を目指して

各学年で「これだけは全員ができるように」と決めていることがあります。保護者のみなさまはご存じですか。右表のように学年ごとに取り組んでいます。「どうしてこのことを100%目指すのか」それぞれに理由があります。たとえば5・6年生の家庭学習表の提出。自分で課題を見つけ、解決方法を考え、自分の言葉で表すことは、中学校に行っても役立つ学習方法です。その下地をつくる意味で、家庭学習表の提出100%を目指しているのだと、私は思っています。何事も、ねらいがあって目指す内容が決められています。学年通信等を通じてそれぞれの学年の思いや考えが伝えられていますので、ぜひ、ご家庭でも子どもたちを励ましていただければと思います。



1年生	詩の暗唱
2年生	読書50冊
3年生	繰り上がり繰り下がり
4年生	47都道府県
5年生	家庭学習表の提出
6年生	家庭学習表の提出

